



美しい 県土づくりNEWS

目次

- 2 (主)重茂半島線(仮称)大沢トンネル築造工事安全祈願祭
- 4 一般県道大槌小槌線が開通!
- 6 一般国道 397 号小谷木橋工区整備が進んでいます!
- 7 「建設ICT講習会」を開催しました
- 8 「優秀建設施工者岩手県知事表彰式」を開催しました
- 9 「いわて復興住宅祭 in 陸前高田」を開催しました!
- 10 浄化槽出前講座を開催しました!
- 11 FDAいわて花巻—名古屋線搭乗者50万人達成!!
- 12 『国体おもてなしロード環境整備事業』を進めています!!
- 14 県土整備部の職場紹介 ~道路建設課~
- 15 県土整備部の職場紹介 ~県南広域振興局土木部~

2016年
7月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第144号
平成28年8月1日発行
編集 県土整備企画室



希望郷
希望郷

いわて国体
いわて大会

いわて国体は10/1から(水泳競技9/4~)、いわて大会は10/22から開催されます

(仮称)大沢トンネル、本体工事に本格着手!

~主要地方道重茂半島線の7工区で初めて~

山田町

県が、「復興関連道路」として、山田町で整備を進めている(主)重茂半島線大沢~浜川目工区において、平成28年7月11日、(仮称)大沢トンネル築造工事の安全祈願祭が開催され、県、山田町、地元住民、工事関係者等約80名が出席し、工事の安全と早期完成を祈願しました。

(主)重茂半島線の全7工区で初めてとなる、トンネル(L=265.0m)の本格着手となります。



安全祈願祭に参加された大沢小学校の児童の皆さんと、トンネル掘削を行うドリルジャンボ

【復興関連道路】(主)重茂半島線(仮称)大沢トンネル築造工事 安全祈願祭を開催しました！！

～ つなごう！復興のために 進もう！復興のその先へ ～

道路建設課

沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

1 主要地方道重茂半島線で初めてとなるトンネル本体工事に本格着手

平成28年7月11日に開催された(仮称)大沢トンネル築造工事の安全祈願祭には、地元の山田町立大沢小学校の6年生児童の皆さんも参加していただきました。

児童代表の福士希さんからは、

「私が、保育園の年長組の春、東日本大震災が起こりました。このトンネルは、大沢に住む私達全員にとって命の道路です。安全に工事が進み、新しい大沢のまちが出来上がるのを楽しみにしています。」

という想いが発表されました。

式典の最後には、復興からの飛躍をイメージした「飛翔」の2文字が描かれた小旗を、児童の皆さんに元気よく振っていただきながら、児童の号令により、ドリルジャンボが起動し、トンネル掘削工事に本格着手しました。

安全祈願祭の様子



大沢小学校児童によるドリルジャンボ起動号令

2 (主)重茂半島線大沢～浜川目工区の事業概要

県では、岩手県東日本大震災津波復興計画に基づき、三陸沿岸地域の復興と安全・安心を確保し、災害に強く信頼性の高い道路ネットワークを構築することを目的として、三陸復興道路整備事業を実施しています。

三陸復興道路整備事業の「復興関連道路」に位置付けられている(主)重茂半島線については、県が重点的に整備を進めています。

このうち、下閉伊郡山田町で事業を進めている大沢～浜川目工区は、多重防災型まちづくり連携推進事業（まちづくり連携道路整備事業）として、山田町が施行する漁業集落防災機能強化事業や土地区画整理事業等の復興まちづくりと連携し、東日本大震災津波と同等の津波が発生した場合でも浸水しない道路を整備します。この道路が、高台に整備される3箇所の住宅団地（大沢第1住宅団地、大沢第2住宅団地、浜川目住宅団地）をつなぎ、災害時等における確実な緊急輸送や代替機能等を確保します。

3 大沢～浜川目工区 全線で工事に着手

県では、今年を「本格復興完遂年」と位置付け、本格復興をやり遂げ、次につながるよう強力に復興を押し進めることとしております。

本工区においても、起点側の大沢地区でトンネル工事を進めるほか、終点側の浜川目地区での道路改良工事も本格的に着手するなど、平成29年度の全線供用に向けて全力で事業を推進していきます。



事業概要図



一般県道大槌小鎚線が開通！

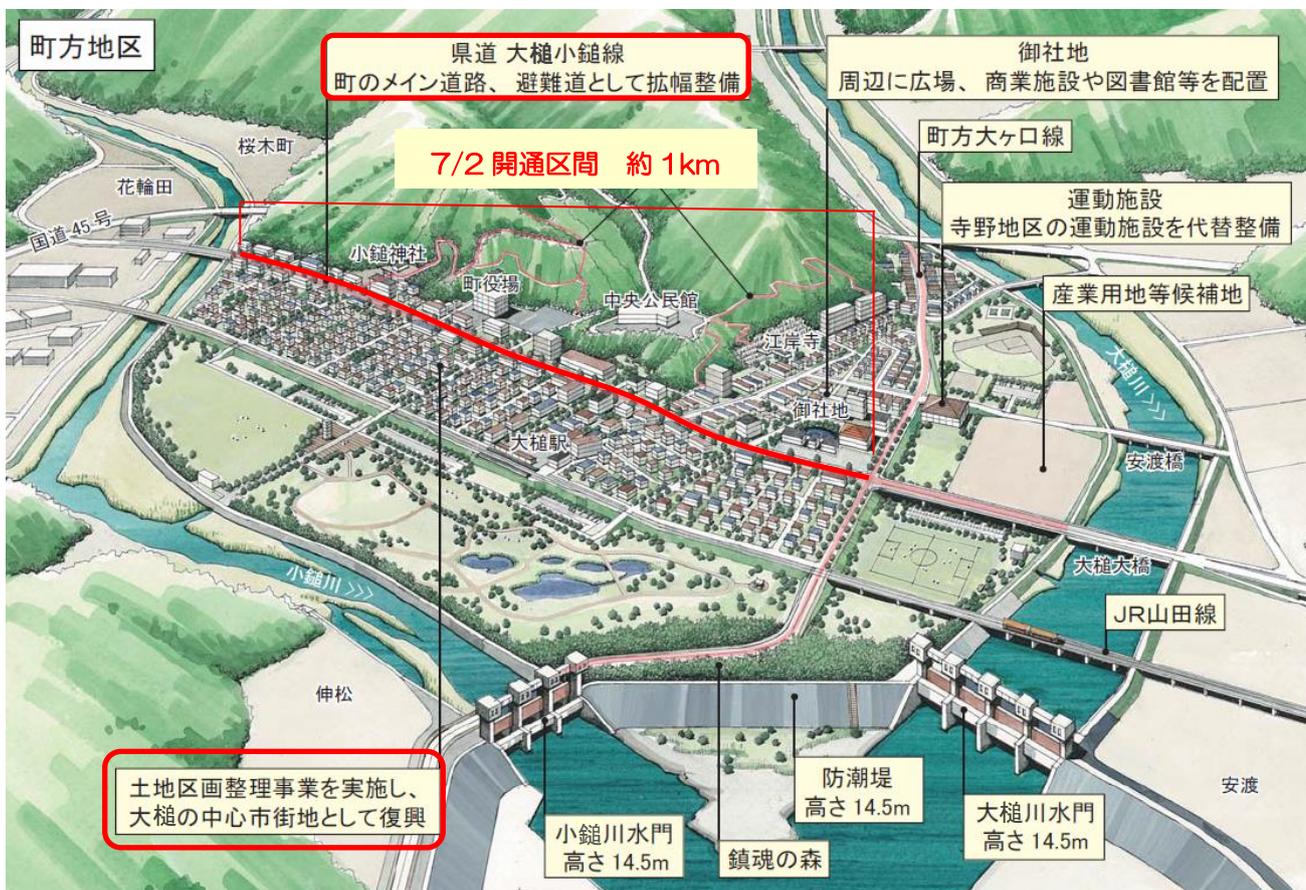
～まちのメインストリートが復活～

沿岸広域振興局土木部



東日本大震災津波で甚大な被害を受けた大槌町で、7月2日（土）、町の中心市街地となる町方地区の幹線道路、一般県道大槌小鎚線が開通し、記念式典が催されました。

開通したのは、震災復興土地区画整理事業によって平均2.2m嵩上げされた町方地区を通る約1kmの区間で、幅員は16m（歩道含む）の片側一車線道路です。



大槌町 町方地区復興まちづくりパース

大槌町の平野公三町長は「復興を加速し、新たな大槌町を築きあげていく上での大きな一歩となることを確信する。」とあいさつしました。式典には、国、県、町の関係者や沢山の町民の方々も参加し、テープカットとくす玉割り、パレード、特設ステージでの地元郷土芸能団体による演舞、餅まきで県道の開通を祝いました。



震災前と同じ場所に復活した県道の開通に、来場した町民の方からは「5年ぶりに歩いたね」という声も聞かれました。今後は、開通した県道北側で、区画の引き渡しや災害公営住宅の整備が8月以降に始まるほか、これまで迂回道路として使用されていた JR 山田線線路敷では、鉄道復旧に向けた盛土工事が始まる見通しです。

【復興支援道路】

一般国道 397 号小谷木橋工区の整備が進んでいます！！

～ 地域で末永く親しまれる橋梁の整備を目指して ～

県南広域振興局土木部

【（仮称）新小谷木橋の現場見学会を開催しました！】

県が「復興支援道路」として平成 24 年度から奥州市水沢区で整備を進めている一般国道 397 号小谷木橋工区の整備が進んでいます。

平成 28 年 5 月 31 日、6 月 1 日には、奥州市立羽田小学校の地域学習の一環として、（仮称）新小谷木橋下部工工事の現場見学会を開催し、5 年生、6 年生の児童が参加しました（5 月 31 日：5 年生 26 名、6 月 1 日：6 年生 26 名）。現場見学会では、小谷木橋工区の歴史や事業計画等を学んだ後、（仮称）新小谷木橋の下部工（P3※）の現場を間近で見学しました。

※ 北上川右岸から 3 番目の橋脚

【子どもたちの想いを橋に託して】

また、本現場見学会では、（仮称）新小谷木橋の下部工（P3）の基礎部に、羽田小学校児童が「未来の羽田地区に託す想い」をペイントしました。奥州市と一関市にまたがる北上山地のエリアは、国際リニアコライダー（ILC）の建設候補地になっていることもあり、児童の皆さんは「ILC の誘致が成功し羽田も人口が増え住みやすい町になってほしい」、「ILC ができて水沢江刺駅が ILC の玄関口になってほしい」など、未来の羽田地区を思い浮かべながら楽しそうにペイントしていました。

児童の皆さんが書いた「未来の羽田地区に託す想い」のペイントは、橋梁完成後も橋の一部として残り続けますので、（仮称）新小谷木橋を将来にわたり、身近な社会資本として感じていただくことを期待しています。

【今後の取組】

小谷木橋工区は、現在、（仮称）新小谷木橋の 3 基の下部工（P1、P2、P3）が完成し、今年の秋頃からは新たに 4 基（A1、P5、P7、P9）の下部工工事を進めていきます。

県では、今年を「本格復興完遂年」と位置付け、本格復興をやり遂げ、次につながるよう強力に復興を推し進めており、小谷木工区についても早期完成に向けて、全力で事業を推進していきます。



羽田小学校 5 年生



羽田小学校 6 年生



下部工にメッセージをペイントする児童たち



完成した下部工

【小谷木橋工区の事業概要】

一般国道397号の小谷木橋（593.5m）は、東北新幹線水沢江刺駅や鋳物工場等が立地する奥州市水沢区羽田町地区と奥州市中心部を結び重要な橋梁です。

また、一般国道397号は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波の際、県内陸部と大船渡市や陸前高田市を結ぶ道路として、自衛隊や消防、救援物資等の輸送等の重要な役割を果たしました。

しかし、小谷木橋は、橋の幅員が狭く、大型車のすれ違いが困難であるほか、昭和29年の架橋から60年以上が経過して老朽化が進んでおり、安全で円滑な通行の支障となっています。

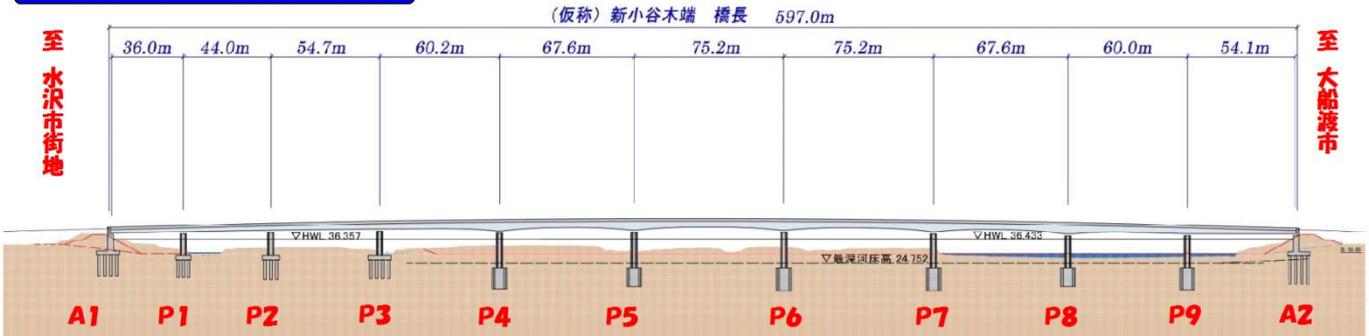
さらに、平成23年4月7日に発生した東日本大震災津波の余震では、小谷木橋の橋脚が傾き、約4ヶ月間の全面通行止めとなるなど、甚大な被害が発生しました。

このため、県では、岩手県東日本大震災津波復興計画（三陸復興道路整備事業）で一般国道397号を「復興支援道路」として位置付け、小谷木橋の架替え（（仮称）新小谷木橋：597.0m）を含む小谷木橋工区の整備を重点的に進めています。

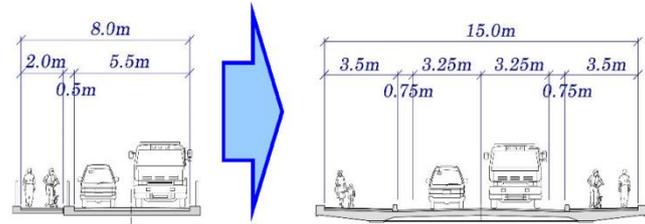
小谷木橋工区の事業計画



（仮称）新小谷木橋の計画



名称	構造	
（仮称）新小谷木橋	延長 (m)	597.0
	上部工	鋼10径間連続合成2主鉄桁
	下部工	逆T式橋台（杭基礎） 壁式橋脚（杭基礎、ケーソン基礎）



「建設ICT講習会」を開催しました

建設技術振興課

平成28年7月7日（木）、釜石PIT（釜石情報交流センター多目的集会室）において、「建設ICT講習会」を開催しました。

国土交通省では本年を『生産性革命元年』と位置付け、土工の情報化施工など建設現場におけるICT技術の活用を本格的に進めることとしています。

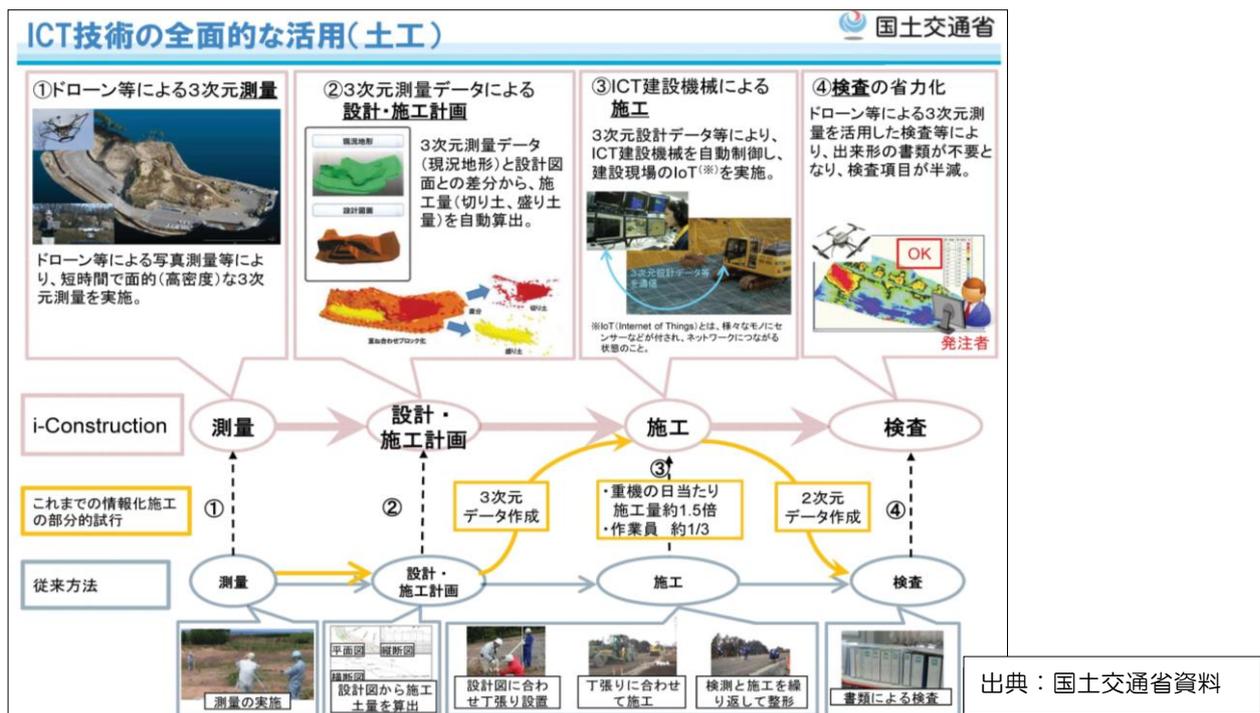
本県発注工事では今後の活用が増えていくものと見込まれることから、建設ICTの最新動向を理解し今後の監督業務等に役立てることを目的として開催したもので、県・市町村の土木職員や多くの建設業者及びコンサルタント業者など130人余りが受講しました。

講習会では、建設技術振興課から「i-Constructionの概要」を説明し、一般社団法人日本建設機械施工協会東北支部から「建設ICTについて」の講演をしていただきました。



建設ICTとは、調査・設計・施工・維持管理・修繕の一連の建設生産システムにおいて効率化及び高速化による生産性向上に寄与する情報通信技術のことです。

建設技術振興課では、今後も発注者である県・市町村の技術職員や受注者である県内建設企業の技術者を対象にICT技術への理解を深める講習会等を開催するとともに、建設業団体等と連携しながら、県内における推進方策を検討していきます。



「優秀建設施工者岩手県知事表彰式」を開催しました

建設技術振興課

平成28年6月21日、「第24回優秀建設施工者岩手県知事表彰式」を盛岡市の建設研修センターで開催しました。

この表彰は、優秀な建設施工者を広く表彰することにより、「ものづくり」に携わっている者の誇りと意欲を増進させ、これらの方々の能力と資質の向上を図るとともに、その社会的評価・地位の向上を図り、**建設業の健全な発展に資する**ことを目的として実施しているもので、建設産業構造改善推進週間の一環として、平成5年度から開催しているものです。

今年度の受賞者は9名で、表彰式では千葉茂樹副知事から**表彰状と建設マスターの徽章**が授与されました。

【受賞者一覧】

受賞者名	所属会社	所在地
伊藤 和裕	大宝商事(株)	一関市
岩淵 利幸	栗原建設(株)	奥州市
工藤 新一	(株)熊谷工務店	盛岡市
近藤 明彦	(株)佐藤組	北上市
澤口 美幸	菱和建设(株)	盛岡市
清水 昭寿	小山田電業(株)	宮古市
菅原 武	(株)菊池組	大船渡市
高橋 浩幸	成和建设(株)	花巻市
千葉 和男	及常建設(株)	奥州市



「いわて復興住宅祭in陸前高田」 を開催しました！

建築住宅課

平成28年7月9日（土）、10日（日）の2日間、「いわて復興住宅祭in陸前高田」を陸前高田市コミュニティホールにおいて開催しました。

東日本大震災津波で被災された方々や地元住民など約500名が参加し、地域型復興住宅や住宅事業者等の取組や展示をご覧いただくとともに、住宅取得・建築に関する各種支援制度の情報提供や個別相談を実施しました。

- | | | |
|---|-------|---|
| 1 | 開催日時 | 平成28年7月9日（土）、10日（日）
各日10時～16時 |
| 2 | 開催場所 | 陸前高田市コミュニティホール
（陸前高田市高田町字栃ヶ沢210-3） |
| 3 | 開催の目的 | 被災者の住宅再建支援のための情報提供 |
| 4 | 主催 | 岩手県 |
| 5 | 内容 | 県内企業・団体20社による最新の住宅情報の提供
公的支援制度、災害復興住宅融資等に関するセミナー
（7/10（日））
公的支援制度、住宅建築、災害復興住宅融資等に関する
個別相談会（7/10（日）） |



浄化槽出前講座を開催しました！

下水環境課

下水環境課では、環境教育活動への支援を図ることを通して浄化槽などの汚水処理施設の普及啓発を目的として、平成21年度から公益社団法人岩手県浄化槽協会と連携して小学校等を対象に浄化槽出前講座を開催しています。

＜浄化槽出前講座の主な内容＞

下水環境課と岩手県浄化槽協会の職員が**県内の小学校を訪問**し、水の循環や汚水処理の大切さについての講義を行う取組です。

今年度は7月現在、大船渡市立猪川小学校など3校を訪問し、73名の児童に講義を行っています。受講した児童たちは、**浄化槽模型による学習**や、**浄化槽から採取した微生物の観察**など真剣に授業に参加していました。

取組を開始した平成21年度から述べ44校、642名の児童が受講しており、今後も「**水の循環と汚水処理の大切さ**」を子供たちに伝え、汚水処理施設の普及や水洗化人口割合の向上につながるよう取り組んでいきます。



「水の循環と大切さ」などについて、現地の浄水場や浄化センターなどの写真を用いて説明し、児童に質問などもしながら講座を行いました。



浄化槽から採取した微生物を顕微鏡で観察。微生物の力で下水の汚れをきれいに行っていることに非常に興味を持ち驚いていました。

＜昨年度（平成27年度）受講した児童の感想＞

- 習字の片づけをするときには汚れをふき取ってから筆を洗うようにし、水を無駄にしないよう気を付けます。
- これからは、油がついた皿はペーパーでふき取ってから洗うよう気を付けます。
- 私たちが汚した水は、微生物がきれいに行っていたことが分かってびっくりしました。
- 水の汚れを少なくするために、みそ汁や牛乳などをなるべく残さないようにしたいです。
- 私たちが使っている水は、循環していることが分かりました。

FDAいわて花巻一名古屋線搭乗者50万人達成！！

空港課

7月15日(金)搭乗者50万人を達成し、記念セレモニーが開催されました！！

記念すべき50万人目のお客様は、この日名古屋を出発しいわて花巻空港に到着したFDA353便の乗客、山川彩加様でした。この後、山川様をお迎えし、花巻空港到着ロビーにて記念セレモニーが行われました。

山川様は岩手県への来県は初めてとのことで、「座敷わらしがいる宿を楽しみにして来たが、いきなり幸運が訪れたみたいだ。」と喜んでいただきました。山川様へはFDAの藤澤隆雄花巻空港支店長から花束とFDAモデルプレーンセットをお渡ししました。

また、FDA353便に搭乗いただいた皆様へ南部型染めコースター、FDAトラベルバック、花巻産リンゴジュースの記念品をお贈りしました。



名古屋線50万人達成記念セレモニーの様子



FDA 花巻一名古屋線について

🌀 搭乗者50万人までの道のり

- ◇ 平成23年5月21日 復興支援の一環としてFDA花巻一名古屋線が週2～3便で就航。
- ◇ 同年 8月 1日1往復の定期便が運航開始。
- ◇ 平成24年3月 1日2往復に増便。
- ◇ 平成25年3月 1日3往復に増便。
- ◇ 平成28年3月27日 1日4往復に増便。

県は今後も、FDA名古屋線の利用促進に取り組んでいきます。
どうぞいわて花巻一名古屋線をご利用ください！



『国体おもてなしロード環境整備事業』を進めています！！



県南広域振興局土木部

『国体おもてなしロード環境整備事業』とは??

国体競技会場への主要アクセス道路等における、国体マスコット「わんこきょうだい」の活用による機運醸成事業です。主な取組の一つとして、視線誘導標への国体マスコットシール貼付を、地域住民と一緒に実施し、希望郷いわて国体・希望郷いわて大会開催に向けた盛り上がり、雰囲気醸成に寄与していきます。

県内各地で地域の皆様と貼付作業を進めています！！

○真城小学校（一般国道4号（奥州市））

6月29日（水）、一般国道4号で、視線誘導標にシール貼付を実施しました！

この取組には、**真城小学校の5名**の児童に協力いただきました！



集合写真



シール貼付状況



貼付イメージ

○遠野北小学校（遠野市道（遠野市））

7月7日（木）、遠野市国体記念公園市民サッカー場北側の市道で、視線誘導標にシール貼付を実施しました！この取組には、**遠野北小学校の8名**の児童のほか、遠野市建設課、同国体開催推進室にも協力いただきました！



集合写真



シール貼付状況

○花巻農業高等学校（一般県道東宮野目二枚橋線、一般県道羽黒堂二枚橋線（花巻市））

7月21日（木）、いわて花巻空港の周辺の県道において、視線誘導標へのシール貼付を実施しました！

この取組には、**花巻農業高等学校 環境科学科の1年生 31名**に協力いただきました！



○舞川中学校 (主要地方道一関大東線 (一関市))

7月13日(水)、主要地方道一関大東線で、視線誘導標へのシール貼付を実施しました!

この取組には、舞川中学校の3年生14名に協力いただきました!



集合写真



シール貼付状況

○弥栄小学校 (一般国道284号 (一関市))

7月14日(木)、一般国道284号で、視線誘導標へのシール貼付を実施しました!

この取組には、弥栄小学校の5,6年生17名に協力いただきました!



集合写真



シール貼付状況

○花泉中学校 (主要地方道花泉藤沢線 (一関市))

7月19日(火)、主要地方道花泉藤沢線で、視線誘導標へのシール貼付を実施しました!

この取組には、花泉中学校の女子バレー部20名に協力いただきました!



集合写真



シール貼付状況

○胆沢愛宕小学校 (一般国道397号 (奥州市))

7月21日(木)に、一般国道397号へ、視線誘導標への国体マスコットシール貼付を実施しました!

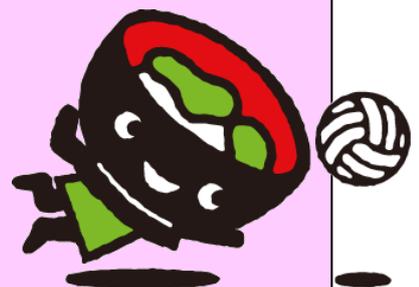
この取組には、胆沢愛宕小学校の5,6年生15名に協力いただきました!



集合写真



シール貼付状況



ご協力いただいた皆様、ありがとうございました!
次号も、具体的に実施したイベント、取組について紹介していきます!

県土整備部の職場紹介 No.4 道路環境課

県土整備部は、「県民から信頼される県土づくり」を目指して、各室課がそれぞれの役割を果たしています。各室課が取り組む課題や業務を毎月ご紹介します。

組織の概要

県民の安全で安心な暮らしを支えるため、**県が管理する国道や県道の維持管理業務**を行っています。

また、平成28年度は、希望郷いわて国体・いわて大会が開催され、選手や大会関係者、観客など多くの方が道路を利用します。皆さんが安心して通行できるよう、関係機関と連携しながら、維持管理の強化に取り組んでいます。

維持担当

安全で快適に道路を利用していただくためには、適切な維持管理が必要です。そのために、**道路パトロールや交通安全施設の整備**を行っています。

また、道路管理施設の老朽化の進展に伴い、修繕・更新の費用が増えていくものと予想されることから、**定期的な点検をし、損傷が深刻化する前に修繕を実施する「予防保全型」の維持管理**に取り組んでいます。

今後も、国及び市町村と連携しながら、道路の適切な維持管理に努めていきます。

【安全な歩行空間を確保】

(主)盛岡環状線野沢工区 →
滝沢市野沢地内
(H28.7.2)



【老朽化対策の取組】

← 道路構造物のメンテナンスに関する現地研修会
(H27.1.29)

管理路政担当

管理担当は、**道路建設課・道路環境課の予算の取りまとめ**などを行っています。

路政担当は、県管理道路に関する路線の認定、廃止及び変更、道路区域の決定、変更、供用開始、道路台帳の整備など、**道路管理に関する事務**を行なっています。

また、道路の安全と道路の正しい利用の促進、道路環境の美化に多年にわたり功績のあった個人又は団体（道路愛護団体等）に感謝状の贈呈を行うなど、より一層良好な道路環境が保たれるよう**地域の皆様と一緒に啓発活動に取り組んでいます。**

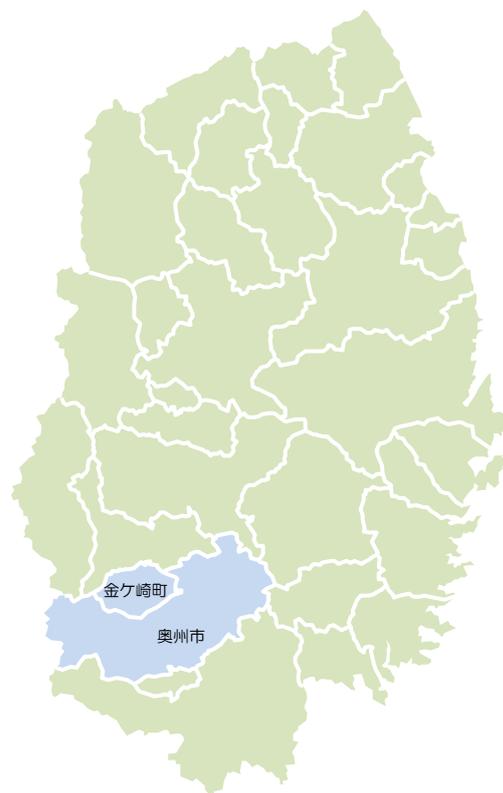
【啓発活動】

道路愛護団体等への →
感謝状贈呈式
(H27.8.25)



← 道路愛護団体等の活動状況
(岩崎二区自治会 様)

県土整備部の職場紹介 No.5 県南広域振興局土木部



地域概要

県南広域振興局土木部は、県南広域振興圏全体の企画・調整業務等(本局業務)と行政センターとしての業務を担っており、奥州管内は、奥州市と金ヶ崎町の1市1町で構成されています。

県が管理する道路は国道4路線、主要地方道6路線、一般県道23路線の計33路線約430km、河川は、直轄管理の北上川に注ぐ1級河川の26河川約204kmとなっています。

県南広域振興圏は、本県でもっとも工業集積が進んでおり、また、県内有数の農業地帯であるという特徴を生かし、農業と工業とがバランスよく融合した地域として、産業振興をはじめ様々な分野で、「世界に誇れる岩手」を牽引する重要な役割を發揮していきます。

組織体制

○組織スローガン

「本格復興完遂年 オール岩手で 県南土木!!!」

○組織の特徴

組織は、部長以下6課で構成し、職員数は、正職員36名と臨時職員等18名を加え、総勢54名の体制となっており、広い分野にわたる公共土木施設の整備、維持、管理および許認可事務を担当しています。5市3町にわたる県南広域振興圏の企画・調整業務等を遂行するため、県内の土木部等で唯一の調整課があるのが特徴です。

今年度の主な取組

(1) 一般国道397号 小谷木橋

一般国道397号は、岩手県大船渡市を起点として、秋田県横手市に至る幹線道路であり、重要港湾である大船渡港と内陸部を結ぶ物流路線です。

小谷木橋は、老朽化に加え、幅員が狭く大型車のすれ違いが困難な状況にあることから、架け替えにより三陸沿岸地域の復興支援と安全な交通確保を図るものです。

現在、道路改良工事や橋梁下部工工事を鋭意進めています。



小谷木橋架け替え工事の状況

(2) 一般国道343号 藤橋

一般国道343号藤橋は、内陸部と沿岸部を結ぶ産業路線として、また、通勤・通学等地域住民の生活路線として重要な路線となっていますが、架橋から39年が経過し、老朽化に伴う損傷等が見られることから補修が必要となっています。

このため、岩手県橋梁長寿命化修繕計画に基づき、**損傷箇所等について計画的な修繕を行い、加えて、当該路線は復興支援道路に位置づけられていることから、あわせて橋梁耐震補強工事を行うものです。**

現在、橋脚補強工事等を進めています。



藤橋橋脚補強工事の状況

独自の取組等

(1) いわて国体にむけた取組

希望郷いわて国体・希望郷いわて大会に向けた県南広域振興局の取組として、「県南でおもてなしいわて国体プロジェクト事業」を進めています。この取組の一環として、盛岡広域振興局土木部と連携して、「国体おもてなしロード環境整備事業」を進めています。

当事業では、**地域住民等と協働による視線誘導標への国体マスコットシールの貼付や、住民協働草刈団体等の国体マスコットを活用した、のぼり旗やサインボードの設置を進めています。**



国体マスコット わんこきょうだい



地域の小学生と一緒に道路上の視線誘導標へ国体マスコットシールを貼付

(2) 本局とセンター間の連携

県南広域振興局では、「いわて県民計画」の実現に向けて、本局・センター間での連携を深めるため、**管内の「土木部長、センター所長会議」、「工務課長会議」、「管理用地課長会議」を開催し、情報共有等に努めています。**



県南管内工務課長会議の様子（5月19日）